

平成23年第7回定例会
可決された

主な議案

平成23年第7回常総市議会(定例会)が、11月30日から12月14日までの15日間の会期で開かれました。

今定例会には、一般会計等補正予算を含む議案19件を市長が提案。初日の本会議で提案理由の説明があり、議案及び請願3件、陳情1件、選挙2件は各常任委員会及び予算特別委員会に付託され、各委員会において詳細に審議がなされました。

最終日には、採決の結果、議案19件中17件が可決・1件が否決、1件が同意、請願3件中2件が継続審査・1件が採択、陳情1件が採択、選挙2件が当選されました。

可決された主な議案は次のとおりです。

議案第65号

職員の給料・ボーナスを減額

平成23年9月30日の人事院勧告を受け、昨年に引き続き給料表月額や期末・勤勉手当を引き下げるための条例及び常総・下妻学校給食組合の解散に伴い、引き続き本市の職員として任用した者に係る在職期間等の特例を定める条例を可決しました。

議案第81号

緊急事態基本法について

国家的緊急事態を平常体制のまま乗り切ろうとすると、様々な支障をきたす。外部からの武力攻撃、テロ、大規模自然災害を想定した「非常事態条項」の明記も無い。平成16年に「緊急事態基本法」の制定で民主・自民・公明三党が合意したが、今日まで進展が無い。近年、自然災害以外にも国民の生命、財産安全を脅かす事態が発生していることに鑑み、国会及び政府において「緊急事態基本法」を早急に制定することを強く要望する意見書を提出することを可決しました。

選挙第10号・11号

人事

市選挙管理委員会委員及び補充員が、平成23年12月25日をもって任期満了となるため、地方自治法第182条の規定により選挙を行い次の方々を当選いたしました。

委員

武藤智子氏・渡辺清治氏

荻部義男氏・小林一夫氏

補充員

松崎和江氏・中川 平氏

田仲安夫氏・海老原和子氏

一般質問

高崎坂東線の採択と認定について

水野 昇 議員

質問

この事業に関するこれまでの経過をまず、確認する。合併当時の遠藤市長からは、合併特例債は水海道6対石下4で使うという説明があった。当時、合併協議をする中で、共通の3大事業は(北部幹線道路・石下庁舎・鹿小路細野線)であったが、北部幹線道路は事業費がかかりすぎて、合併特例債支援事業金を入れても無理であるとの説明があった。県の支援事業金については、石下も水海道も5億円づつ、あわせて10億であった。これを、水海道には工業団地があり、美妻橋が渋滞して大きな流通障害となつているため、この解消のためにパイパスまで抜く工事が10億かかり、これに充たさせていたのだと、遠藤市長からの申し入れがあった。石下で事業が展開されたときは、その5億円は充当するとのことであった。その後、長谷川市長が就任され

てから事業展開の見通しが立ち、喜んでいたところであるが、議会において執行部提案が否決されてしまった。しかし、大変に危険な道路である。人身事故もいくつもあり、物損事故については言えませんが、限りが無いほどである。地元住民より、早期実現の会というものが出来、また、皆さんの署名を集めるからという事で8657名の署名を集めていただいた。今後、再認定を取るためには、この請願を採択し、財源をしっかりと確保し、県と交渉することが大切である。合併時に持ち寄った資産を活用し、市長の英断を持つて、この件が認定された後のことを強くお願いするものである。

答弁(都市建設部長)

路線整備を市が行うには、市道認定が大前提である。また、東日本大震災の影響で厳しい財政状況であり、交付金の採択、合併特例債

14名通告順

再質問

県のほうでも予算がないのは理解している。やる気がないといつては語弊があるが、財源不足の都合でやれないのが一つの事実でもあると考える。そこで、私がお願しているのは、残っている特例債をやりくりし、負担分は合併時に持ち



高崎坂東線